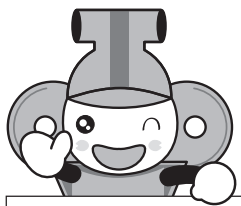


ここがポイント!そこが聞きたい!!



一般質問

はにぼん
はにぼん

一般質問とは、市の行政事務の状況や将来の方針などをただしたり、報告を求めたりするもので、定例会ごとに行われます。今定例会では16名の議員が質問を行いましたので、主なものの要旨を掲載いたします。なお、本文中の「見出し」及び「問」は、質問者自身が責任をもって作成したものです。

詳しい内容は、会議録(2月下旬発行予定)をご覧ください。会議録は、議会事務局、児玉総合支所、はにぼんプラザ、図書館、公民館及び市議会ホームページで閲覧することができます。
<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/honjo/pg/index.html>



雫岡城跡公園(城山公園)の 環境整備について

自由民主党
本庄クラブ代表 早野 清

問

雫岡城跡公園は、以前には花見客で賑わっていたが、今では来訪者も少なくなり、まちなかの賑わいを取り戻すべく、雫岡城跡公園が「行ってみたくなる公園」となるべく八幡山の人才が城山公園愛護会を作り活動が始まりました。歴史的景観を復元的に整備するべく、今後、雫岡城跡公園全体の整備計画を策定すると言っているが、環境整備計画についてのお考えを伺います。

答

平成31年の改正文化財保護法の施行により、「文化財の保存」、「景観の保護」という考え方に、「活用」という考えが加わりました。また、文化財の保存・活用に関する総合的な計画となる文化財保存活用地域計画が市町村において作成できるようになりました。本市では、この地域計画の作成を令和3年度から進めており、令和5年7月の文化庁の計画認定を

目指し準備を進めています。

雫岡城跡についても、この地域計画に方針・措置を定めていきます。さらに、文化庁による地域計画の認定を受けた後に、雫岡城跡の保存・活用について、個別かつ具体的な方向性を定めていくことになります。

雫岡城跡は、地域を代表する城郭遺跡として歴史的な景観を維持している重要な史跡であることから、景観という点において慎重に検討していく必要があります。また、行ってみたくなるような憩いの場として活用できるかについて、積極的に考える必要があります。今後、これらを高次元で両立するよう、慎重に検討していかねばならないと考えています。

(文化財保護課)



雫岡城跡公園

若者支援の 奨学金について

公明党代表 栗田 弘志

問

今年度の夏の高校生奨学金について訴えた。経済的な事情で進学をあきらめてもらいたくはありません。また、奨学金を返済しながらの生活の不安の声や出産・子育てを躊躇する声なども聞く。高校生や大学生などを含めた若者支援について伺う。そして、若者が希望を持てるようにする方策の一つとして、あらためて給付型奨学金の創設について伺う。

答

教育委員会の支援の取組としては、高校、大学等に進学する方の保護者への本庄市入学準備金貸付制度と進学する本人への本庄市育英資金貸付制度があります。この貸付制度は、修学意欲と能力がありながら経済的な理由で修学困難な者に対し、修学に必要な費用の貸付により、教育の機会均等に寄与するとともに、次世代の人材を育成することを目的としています。

給付型奨学金は財源の確保に課題があると考えています。財源の範囲内で給付するには人数制限を設け、応募状況等により応募者の選考を要し、その年度によって差異が生じることもあります。

給付型奨学金の創設は利用者にとって選択の幅が広がりますが、望ましいことではあります。他の制度との併用ができなくなることや安定的な財源の確保という観点からは現段階では難しいと考えています。

国において給付型奨学金の対象者を拡大する方向で検討を進めているため、動向を注視しながら先進の実施自治体の事例を研究していきます。

(学校教育課)

【その他の質問】

・本市のデジタル・トランスフォーメーションについて



本庄市内の公立小・中学校の
学力向上について
市議団未来代表 小賀野 健司

問 全国学力・学習状況調査における令和3年度の平均正答率は、小学校6年生は目標値に近づいているが全国平均を下回っており、中学校3年生では目標値を大幅に下回り年度ごとに下がっています。現状を改善するために、シラバスを着実に実行出来る体制を作る事と過去問の実施を行い、出来なかった事を繰り返し復習する事を提案するが、いかがでしょうか。他の施策があれば伺います。

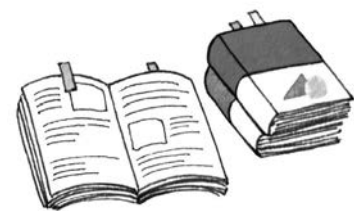
答 各学校では、学習指導要領により各教科の年間指導計画を作成し、日々授業を実施しています。教育委員会では、各校が作成した計画について進捗状況等を確認しながら、学校に訪問した際に、点検・指導を行っています。今後は、教科横断的な視点から教育計画を見直すとともに、国や県の施策等に基づき、組織的かつ計画的に教育の質を向上させていきたい

と考えています。

学力・学習状況調査に関しては、実施問題を活用した確認問題を行い、学習内容が確実に身につけているかの確認をし、必要に応じて個別に指導・支援をし、学習内容の定着を図っています。また、一人一台端末の効果的な活用も、学力向上に欠かせないものであると考えています。具体的な取組として、デジタル教材や授業支援ソフトの活用を行っています。

問 まちの魅力の発信、まちへの愛着の醸成、まちの価値観を高め、関係人口を増やしていく等、今やシティプロモーションは持続性という観点からも必要不可欠であると考えています。ブランディングにあたってはコンセプトとターゲット設定が最も重要であり、さらにはシティプロモーションの主役は市民であり、まずは市民がまちを楽しみ、誇りを持つ方向性が必要と考えるが市の見解を伺う。

【その他の質問】
・市政に対する推進方法と進捗状況について



答 シティプロモーションにおけるコンセプトとターゲット設定は、将来にわたりどういったまちを目指すのかを左右する非常に重要なものです。本市の「売り」特色「らしさ」を発掘し、磨きをかけ、ブランドをつくるシティブランディングとの一体的な整理で、より効果的なものになると考えています。これまではメッセージを届けたい相手に一言で刺さる

本庄市のシティ
プロモーションについて
市議団きせき代表 山田 康博

「キャッチコピー」を作成し発信してきました。様々な事業に取り組み中、ブランドの思いやビジョンを端的に表現したブランドメッセージを定めていないことで、めざす姿が伝わりづらい、市民の皆様や各課の事業を横断的に連携する仕組みがないなどの課題が見えてきました。

【その他の質問】
・文化財の有効活用について



問 本庄で生まれ育った意欲と能力ある若者が躊躇無く進学を決断できる給付型奨学金を創設することを初提案者として、また奨学生として3度目の提案をする。毎年募集人数を5人と設定すれば、年間180万円が可能。税の使途として市民の理解も得られると思うがどうか。通塾できない生徒等の学びを補完し学習意欲を向上させる場を整備・充実させることが必要と思うがどうか。

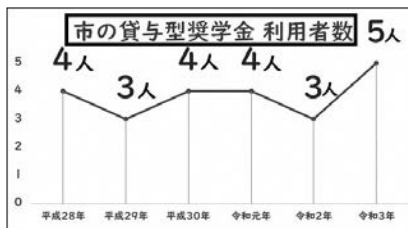
答 給付型奨学金制度の創設には、持続可能な仕組みづくりが重要であると認識しています。給付型には返済がないため、次に必要とする方への財源確保が課題になります。1年目は年間180万円の給付としても、大学4年間の2年目、3年目、4年目には約700万円になり、財源の安定的な確保が難しいため、現時点での創設は難しいと考えています。

給付型奨学金・
学習する「場」の創設で
教育機会の保証を
市議団大地代表 内田 英亮

各中学校では、生徒の学習意欲の維持向上のため、できなかったところをそのままにせず、できるようにするための取組を行っています。生徒自身で何が分かっていないかを確かめられる確認問題を積極的に活用するなど、生徒の状況把握に努め、授業改善に生かしています。また、教員OB等の人材を活用し補充学習を行い、分らないところを個別に聞くことができる放課後等学習支援事業を実施しています。

(学校教育課)

【その他の質問】
・塙保己一旅立ち公園と塙保己一旅立ちの朝銅像について
・ジェンダー平等で多様性を認め合う市を実現するため



市の貸与型奨学金6年間の利用者数

問 本庄市において、農業が推進する持続可能な食料システムを構築するためには、環境負荷軽減を図りながら、特色のある農業を展開する必要があります。耕作と畜産を繋ぐ「耕畜連携」の強化は、地域の未利用資源を活用できる地域循環型農業に繋がる。JAとの連携や、市のホームページを利用して情報の共有を図るなど、環境に配慮した本庄市の農業、耕畜連携の取組について伺う。



手作りの星のガウンに護られた子牛

処理対策の強化、飼料作物の確保など、慎重に取り組まなければならない課題も多くあります。本市では、これまでもJA等と連携を取りながら、市内の農業者への聞き取りやアンケート等を実施するなど情報交換の場を設け、地域の実情や課題の把握に努め、新しい技術や設備の導入支援を進めてきました。今後、長年継続している環境にやさしい農業のさらなる推進を図るため、先進的な取組を研究しつつ、耕畜の農業者や関係機関と連携しながら、市内の農業を様々な形で支援していきたいと考えています。

【その他の質問】
・本庄市の教職員の働き方改革について

問 埼玉県と群馬県をつなぐ国道254号の藤武橋は、休日や朝夕は慢性的な渋滞が発生し、緊急車両等の通行の妨げとなるなど、「大切な命が危険に晒される」事が憂慮されます。バイパスを建設し新橋の架橋により県境での交通渋滞が解消され、高速道路をはじめとする主要幹線道路へのアクセス向上、更には産業団地促進、そして地域医療の充実に資するものと考えますが見解を伺います。

答 国道254号バイパスの実現に向けては、平成27年12月24日に藤岡市を会長市として、本庄市、神川町の2市1町で「国道254号本庄藤岡間バイパス建設促進期成同盟会」を設立し、埼玉県、群馬県の両県へバイパスの早期事業化について毎年要望活動を行っています。バイパスの整備により本庄市や沿線地域の期待できる効果ですが、1つ目として地域



バイパス建設の起点、吉田林交差点

医療の充実が挙げられます。児玉郡外の医療機関に搬送される場合、複数の搬送経路が確保でき、救急搬送時間の短縮など、県境を越えた医療体制が強化されます。2つ目として本庄市、神川町、藤岡市の地域間を結ぶ新たな交通ネットワークが形成されることで更なる地域間交流の促進が期待されます。3つ目として沿線地域における高速道路へのアクセスが向上し、企業進出による産業の活性化や雇用の拡大が期待できます。バイパスの整備については、神流川に新橋を架ける必要もあり、多額の整備費用がかかるなど多くの課題がありますが、地域にとって重要な路線ですので、引き続き要望活動を行っています。

(道路管理課)

JR八高線児玉駅の 現状と今後について

山口 豊（自由民主党本庄クラブ）

問 鉄道事業者と沿線自治体との協働により、地域公共交通の再構築に取り組んでいる自治体もございますが、無人駅となった児玉駅逆口改札口設置についての進捗状況、また、跨線橋を撤去し、車いす使用の方や駅利用者に限り渡れるよう構内踏切やスロープを設置する自治体もあります。この児玉駅の整備に関する本市の考えをお聞かせ下さい。

答 児玉駅東側改札口の設置は、場所や費用等の課題もあることから、将来を見据えた児玉駅周辺のまちづくりの方針との整合性が最も重要だと考えています。現在、都市計画マスタープラン、立地適正化計画の改定作業を進めており、昨年度実施した都市計画道路の見直し結果等を踏まえ、総合的に判断する必要がありますと考えています。来年度以降、地元での意見交換や合意形成など、早期に必

要な作業に着手したいと考えています。

構内踏切については、管理をしているJR東日本に問い合わせをしていますが、国の方針として、安全性の観点から全国的に踏切を増やすことは考えておらず、設置は非常に難しい状況と伺っています。児玉駅の利便性向上は、バリアフリーや観光客誘致の観点から様々な課題があると認識しておりますので、先進事例等を調査し、国や県の動向を注視しながら、引き続きJR東日本との連携も密に行い、何ができるのか研究していきたいと考えています。

（都市計画課）

【その他の質問】
・花園アウトレットオープンに伴う市の環境整備について



構内踏切とスロープのある駅

コミュニケーション支援 ボードの設置について

矢野間 規（市議団きせき）

問 話し言葉による、コミュニケーションに困難のある方が、絵や文字を指差しして使用し、意思疎通を助けるツール、コミュニケーション支援ボード。市役所では障害福祉課に設置しているが、市民課や子育て支援課等多くの市民が利用する課への設置の他、公共施設への設置拡充を提案する。また、市内店舗や事業所への啓発、設置を市が積極的にを行うことを提案するが、市の考えを伺う。

答 現在、コミュニケーション支援ボードは、障害のある人や、外国人とのコミュニケーション支援といった場面で活用できるような内容も工夫が進み、全国的にも利用が広がっています。本市では、災害時の避難所や、投票所に設置し、特定の場面での円滑なコミュニケーションが図れるよう、内容を限定したものを用意しています。障害福祉課では、窓口にタブ

レット端末も常備しており、筆談や翻訳ソフトを利用して

います。コミュニケーション支援ボードは、より簡単で物件を明確に伝え合うには非常に有効であると考えており、タブレット端末と併せ、コミュニケーションツールの選択肢として拡充していけるよう庁内の調整を行い、実施に向けた検討を進めていきます。今後は、市内の事業所等へコミュニケーション支援ボード設置の啓発を推進していきたいと考えており、無償配布や、市ホームページから、誰でもダウンロードできるなどの工夫を検討していきたいと考えています。

（障害福祉課）

【その他の質問】
・市内の道路の安全と危険箇所改善について



コミュニケーション支援ボード

医療体制の現状と 今後の取組について

林 富司（市議団未来）

問 報道によりますと、埼玉県の10万人あたりの医師数は全国一少ないと言われ、大変深刻な問題となっており、そのために地域で不足する医療機能の充実を図っています。

そこで埼玉県及び本庄市の医師数の現状をお聞きします。また、医療は地域で完結するのが理想であります。本市の医療体制の取組と圏域外の受け入れ体制、今後の本市の取組について伺います。

答 国で実施した調査によりますと、令和2年末現在、埼玉県内の医療施設に従事する医師数は13057人、本市の医療施設に従事する医師数は122人です。救急医療体制ですが、初期救急として、休日急患診療所や在宅当番医制を設けています。また、入院や手術を要する患者に対応する二次救急は、第二次救急医療圏ごとに病院群輪番制により整備し、生命



【その他の質問】
・学校のプールの今後について

（健康推進課）

の危機が切迫する重篤患者に対応する三次救急は、県が救急医療圏単位で救命救急センターを整備しています。圏域外における救急患者の受入については、群馬県の医療機関への搬送件数が多いことから、群馬県の医療資源も含めて活用を図り、市民の皆様への安全・安心を確保することが重要と考えています。本市では救急医療体制の確保のため、医師会をはじめ、近隣の医療機関、自治体等との連携を図りながら取組を進めており、今後も救急医療体制の充実に向け、関係機関との連携をより強固とすべく努めていきます。

県道花園本庄線の 整備について

梗田 平一郎（市議団きせき）

問 県道花園本庄線の整備が急ピッチで進められています。深谷市コスモス街道までの工事の進捗状況を伺います。コスモス街道までが開通されまると、国道17号線を補完する路線として17号線に匹敵する幹線道路が完成することとなります。開通予定時期を伺います。また、全線開通すると花園インターやアウトレットなどが格段に近くなりま

答 県道本庄寄居線から深谷市榛沢地内の現道間を榛沢新田工区として整備が進められています。本庄市側の整備状況は、道路及び橋梁の工事を合わせた全体の進捗率は令和3年度末時点で約44パーセントです。深谷市側の整備状況は、令和3年度末時点で約66パーセントです。開通時期は、交通管理者である警察、その他関係機関との

こころの健康について

清水 静子（公明党）

問 「誰も自殺に追い込まれることのないまち本庄」の実現へ、本庄市自殺対策計画次期計画策定を前に早期発見のため、心身状態の評価と支援促進システム「RAMPS」の導入はどうか。また、「死にたい」等とインターネットの検索エンジンやSNSに書き込んだ時に、優しい言葉と相談窓口の表示を出す検索運動型の広告で、自殺を思いとどまる一歩になるのではないかとと思うかどうか。

答 議員ご提案の「RAMPS」ですが、声に出しづらい心のつらさを、タブレット等を活用して、児童生徒が養護教諭等に伝えることを助け、教員が児童生徒の抱える精神不調の見過ごしを防ぐことを目的としたシステムであると認識しています。このRAMPSは、児童生徒が声に出すことができない不安や悩みを周囲の大人が発見できるとい



【その他の質問】
・切れ目のない子育て支援について
・HPVワクチン（子宮頸がんワクチン）について

高校生による
魅力発信について

谷田 裕之(市議団大地)

問 今年度も高校生プロジェクトの七高祭が新しい企画で始まり「高校生が、本気で、本庄を変える。」とありました。市としての目的と意義をどのように考えた企画だったのでしょうか。高校生により地域振興をいかに図っていくかが重要であり、市が今回おこなった手順・方法がその解決の一つとして効果があったのかを考慮し、今現在での評価をどのように見ているかお答えください。

答 七高祭には、高校生が地域を知り魅力を発掘することで、まちの賑わいを創出する地域活性化の目的と、直接地域に足を運び、まちを知り、まちの人と繋がることで関係人口を創出する機会の提供の場とする目的があります。また、自分たちでテーマを考え、何かをやり遂げる達成感是自己の実現として自信になり、協力してくれた市民やまちとの繋がりと感謝が

芽生え、本市のファンになってくれることも期待しています。高校生を軸にファンを生み広げる活動は、高校生が主体となって地域活性化を図る取組の一つになると考えており、関係人口の増加は長期的な視点でまちを持続的に発展させることに繋がるため、意義のある事業であると考えます。

七高祭へ参加した高校生へのアンケート調査では、本市への愛着度が上昇しており、目的とする高校生と市との関係人口の構築に寄与したものと考えます。高校生がより主体的に参加できるよう手法については見直していきます。

(広報課)

【その他の質問】
・はにぼんプラザの不具合の改善について



広報ほんじょう 11月号別冊版

児玉飛行場の資料を
平和学習などに
活用することについて

柿沼 綾子(無党派)

問 本庄市で教鞭をとられていた北沢文武先生が所有する、児玉飛行場に関する資料は、毎年市役所のホールにも展示されている貴重な資料である。

以前にも提案したが、個人で保管しているものだが、市で手に入れて、保存し、平和学習・歴史学習に活用してもらいたいのがかか。

所有者の方もそうに願っていると聞くので、ぜひ進めていただきたい。

答 本市では、非核平和都市宣言に基づいて非核平和事業を行っており、「非核平和とネル展」及び「青少年平和学習」を実施しています。「非核平和とネル展」では、広島平和記念資料館から資料を借用するほか、市役所敷地内に植樹された広島の被爆樹木2世であるアオギリの写真を展示するなど、平和に対する意識の高揚を図っています。「青少年平和学習」では、

原爆が投下された広島、長崎を題材としたDVDによる学習と、東松山市にある丸木美術館所有の「原爆の図」の3作品の展示及び説明を行っています。若い世代にも戦争の悲惨さや、平和の尊さを改めて考える機会となり、一定の効果を得られていると認識しています。

教育委員会では、本市の歴史や文化を理解する上で重要な資料について、収集、保存、研究、活用を行っています。児玉飛行場の資料の収集・保存については、資料を確認した上で歴史資料としての活用方法、収集等について検討していきたいと考えています。

(秘書課・文化財保護課)

【その他の質問】
・市の取引とインボイス制度について



請願の審査結果

12月定例会では、請願1件を慎重審査しました。

審査結果 継続審査

▽「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」の実施延期を求める意見書」の提出を求める請願書

【提出者】本庄民主商工会
代表者 野澤孝義 氏

12月定例会のついで

12月定例会における各委員会の審査内容について主なものを紹介します。

◇総務常任委員会

○第83号議案

令和4年度本庄市一般会計補正予算(第8号)

公用車購入業務に係る電気自動車の車種などについて質疑しました。付託議案3件について、すべて可決すべきものと決しました。また、付託請願1件について、継続審査にすべきものと決しました。

◇建設産業常任委員会

○第74号議案

本庄市勤労青少年ホーム設置及び管理に関する条例を廃

公立学校の学習用端末の
取扱いについて

巴 高志(市議団さきせき)

問 新型コロナウイルス禍の中、児童生徒に一人一台の学習用端末を配布するGIGAスクール構想が加速し、全校で端末の配備が進みました。こうした中で、その使用が1年以上経ち、端末の故障が相次いでいると聞きます。本庄市として端末の全校配布の経緯とその取扱いについて、これまでどのようなルールで行われ、故障については対策や修理費用も含めての現状をお聞かせ下さい。

答 本市でもGIGAスクール構想の実現のため、令和2年度、市立小中学校全学年の児童生徒及び教職員分の端末を配置しました。適切な利用のための基本的ルールを定める利用規程と、端末の使い方、注意事項等を記載する利用の手引きを作成し運用しています。取扱いの一例ですが、登校後、充電保管庫から端末を取り出し、授業中は教職員の指導の下、イ

止する条例

施設の利用団体への説明状況などについて質疑しました。付託議案6件について、すべて可決すべきものと決しました。

◇厚生文教常任委員会

○第80号議案

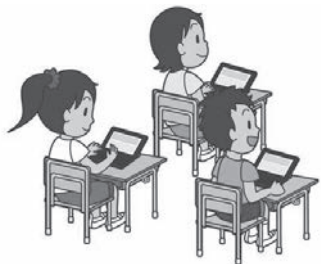
指定管理者の指定について応募のあった2団体の提案額の差の理由などについて質疑しました。付託議案7件について、すべて可決すべきものと決しました。

◇17号バイパス及び幹線道路整備対策特別委員会

国道17号バイパスの早期整備のため、埼玉県知事、埼玉県議会の自由民主党国道17号バイパス(本庄道路)建設促進懇話会、公明党議員団への表敬訪問を行いました。

◇交通政策及び観光政策特別委員会

本市のJ・R東日本への要望活動について、沿線市町で構成されている協議会等を通して行っている要望内容等の説明をいただき、活発な意見交換を行いました。



【その他の質問】
・本庄市におけるデジタル教科書等の導入について

インターネットで調べ学習をしたり、計算練習等を行ったりしています。授業後は充電保管庫に端末を戻し、教職員が確認後、施設します。

学校現場では、端末の使用時は机の真ん中に置く、授業中以外は使用しないなど注意喚起をしっかりと行っています。端末が故障した場合、予備用の端末と交換し、学習活動に支障がないよう対応しています。学習目的で使用中のやむを得ない故障や破損は、市が負担することとしています。

今後も、端末故障の対策や対応については、引き続きより良い方法を検討していきたいと考えています。

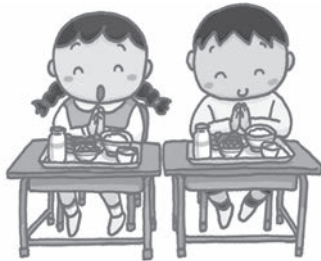
(教育総務課)

問 新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延して3年が経とうとしている。本市の公立小・中学校の現状を伺う。マスクの着用状況、また給食は現在も黙食なのか。コロナ感染症陽性による欠席者が複数(2人)での学級閉鎖は今も変わらないのか。中学校の部活動・学校行事の規制は緩和されたのか。「マスクでの差別をしないこともコロナ対策である。」学校・教育委員会の指導・知恵を伺う。

門倉 道雄(市議団未来)

答 マスクの着用については、室内の授業中はマスクの着用を推奨しており、登下校時や体育の授業では基本的にマスクを外すよう周知しています。給食については、現在食事の会話は禁止せず、大きな声にならないよう指導しています。

学級閉鎖の基準については、当該学級の在籍児童生徒数に応じて、基準を2から4名の陽性者とし、学校医等の助言



【その他の質問】
・本庄市公共施設予約システムの現状について

を踏まえて、学級閉鎖を判断しています。

部活動については、登校時における生徒の健康観察を徹底するため、朝練習を中止としています。学校行事については、今年度、修学旅行や林間学校は全ての学校で実施することができました。今年度の卒業式、来年度の入学式は感染状況を注視しながら、保護者の参加人数を決めたいと考えています。

マスクを着用できない、又は外せない児童生徒がいる場合、児童生徒や保護者の意思を尊重しつつ、他の児童生徒への配慮を含め、適切な対応を行っています。